

今月号の特集は、戸山芳昭先生の企画のもとに「最小侵襲脊椎安定術 (MISt)」が取り上げられた。この手技は今後、脊椎外科領域の重要な一分野になることが予想される。この手技を利用したさまざまな脊柱固定法が紹介されており、現段階でのこの手技の到達点・課題がよくわかる特集となっており、有益な知見が数多く含まれた優れた企画となっている。

ただ、最近はお存じのように某大学の外科医が行った腹腔鏡下の手術にて惨憺たる術後経過をとった患者が多数存在したことが事件めいて報道されている。この事件の個々の症例の内容・具体的な手術手技の詳細・術後経過を知り得ないために断言することはできないが、通常の開腹手術ではとてもありえないほどの合併症率・死亡率とのことである。

従来からいわれているように、低侵襲手術は皮膚切開線が小さくて済み、患者の各種臓器への操作が少なく済み可能性がある点では確かに「低侵襲」ではあるが、術者にとっては通常の大きく開いて行う術式に比べて、きわめてstressfulな負担の大きな手術である。

MIStに代表されるような低侵襲手技は、通常のopen surgeryを数多く経験し、考えられる各種の術中合併症に対する対処法を十分に身につけた術者にして、初めて許される手技であろうと思う。経験の少ない者や、ましてや初心者が見よう見まねで行う手技では決してない。

外来で患者を診ていると、先達が何十年も前に行った腰椎の前方固定術や後方固定術、頸椎のlong graftを用いた固定術の術後X線撮影にお目にかかることがある。当然のことながらまったく金属による内固定は併用されていないが、見事なほどの固定が獲得されており、惚れ惚れすることもある。「脊椎固定では十分量の自家骨移植が最も重要かつ必要なことであり、さまざまな内固定器具は骨性癒合が完成するまでの仮固定である」という命題は、今後もあらゆる固定術においても忘れてはならない大原則であると思う。

(花北順哉)

論文外部審査委員

朝妻孝仁 嶋村 正 高橋和久 高橋啓介 松永俊二
持田譲治 山下敏彦 久保和親 庄田 基 水野順一

脊椎脊髄ジャーナル

編集顧問

長島親男 小野啓郎 萬年 徹
高橋 昭 金田清志 小山素磨
小柳知彦 田代邦雄 国分正一
服部孝道

編集委員

戸山芳昭 (編集委員長)
青木茂樹 安藤哲朗 金 彪
園生雅弘 高安正和 田口敏彦
谷 論 徳橋泰明 花北順哉
飛驒一利 松山幸弘 山崎正志
米延策雄

Vol. 28 No. 5
(2015年5月25日発行)

毎月1回25日発行

1部定価 (本体5,400円+税)

(配送料別)

年ごめ予約購読料 30,700円+税

送料弊社負担

発行/株式会社 三輪書店
代表者 青山 智

〒113-0033

東京都文京区本郷6-17-9

本郷網ビル

TEL 03-3816-7796

FAX 03-3816-7756

URL <http://www.miwapubl.com/>

(担当: 山岸)

印刷所/三報社印刷株式会社

TEL 03-3637-0005

広告申込所/

(株)文栄社

TEL 03-3814-8541

(株)ハイブリッジエージェンシー

TEL 03-3814-0089

本誌の内容の無断複写・複製・転載は著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。

Published by MIWA-SHOTEN Ltd.
6-17-9 Hongo, Bunkyo-ku, TOKYO © 2015,
Printed in Japan

JCOPY <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構(電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。